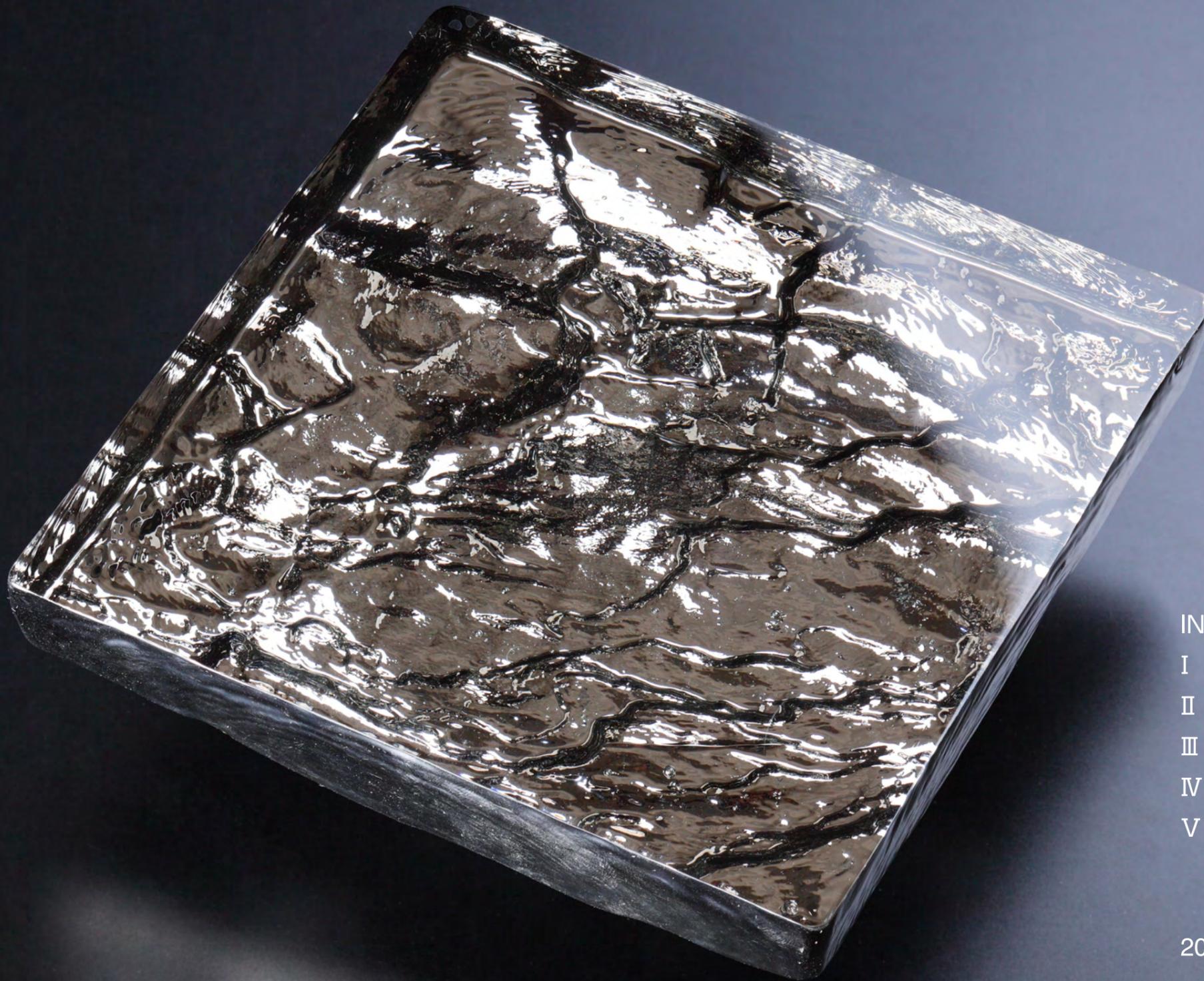


# 新富山駅高架下空間自由通路 フロア・シャンデリア



## INDEX

- I フロア・シャンデリアデザインコンセプト
- II フロア・シャンデリア配置図
- III フロア・シャンデリア全景（昼）
- IV フロア・シャンデリア 照明点灯
- V シャンデリアブロック仕様図

2013.9.27

小野寺康都市設計事務所  
富山ガラス工房

※このシャンデリアブロックの写真は、上部に強化ガラスのないコアのみの状態です。

## 主眼としてのモビリティ・デザイン

——さりげなさの中に高い技術力を生かした演出、という豊かさ——

富山駅における新幹線とLRTに象徴される最先端のモビリティ(交通)デザインは、単なる機能施設ではありません。何より美しく、そして人にやさしく、使いやすく快適なものでありたい。富山ガラスの造形性、芸術性、技術の高さを十分に生かし、さりげなさの中に豊かさ、楽しさを演出し、人々をおもてなしすること。ただし、駅全体空間とのトータルデザインの完成度に主眼を置きます。「富山の先進性」と「利用者の喜び」を実現する、高質なパブリックスペースのデザインを目指します。

## 富山の新たな地域文化と最新技術で演出するグラス・アートのもてなし空間

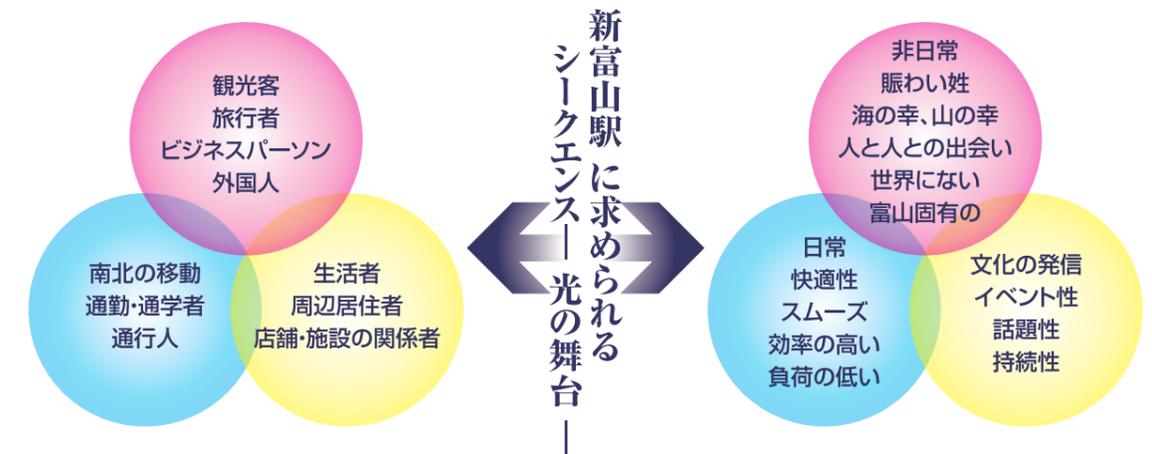
新たな富山駅は、北陸新幹線の主要駅として在来線と一体で整備される一方、これを契機に南北のLRTネットワークも再編され、新駅を中心に一体で連結されます。これによって、最速の長距離大量輸送メディアである新幹線と在来線が、新たなLRTネットワークと相互乗り入れしながら、さらに駅前広場でバス、タクシー、一般車とも接続する一大結節点が成立します。

富山市が目指す「お団子と串の都市構造」のコンパクトシティは、歩いて暮らせるまち——すなわち、最も遅い交通、である、徒歩と自転車を重視し、これを主体とするまちづくりが基本です。一方でそれは、高速大量輸送の利便性を否定するものではありません。新しい富山駅は、いわば“徒歩から新幹線まで”といった、最も遅い交通から最も速い地上交通までという広いレンジの交通結節点が完成することになり、これはコンパクトシティの高次の姿といえるでしょう。

それを祝祭する場として、新幹線、在来線、それぞれの改札口の延長上の南北自由通路内に、富山の新たな地域文化であるガラスアートと、富山が誇る最新の工業技術で人々をおもてなしする空間演出を図ります。「シャンデリア」をコンセプトにデザインされたその空間は単なる装飾品ではありません。煌くガラスの舞台に、人々がともに降り立ち、空間を共有する体験装置です。富山の豊かな自然や歴史文化のメッセージが込められた煌く空間が人々を包み込み、家族や仲間とともにそれを享受する舞台空間——それが「フロア・シャンデリア」です。

## オール富山の技術を集積

- ・富山ガラス工房館長野田雄一がメタルコーティングガラスを開発し、プロジェクトがスタート。
- ・小野寺康ディレクションによる、ガラス鑄型のイメージを富山のデザイン会社(株)COZYが図化し、これを高岡銅器で培われた芸術性を持つ(株)梶原製作所が製作。
- ・公共空間の安全性を高めるため、すべり止め加工を施した強化ガラスを三芝硝材(株)が製作。
- ・光の反射に優れたメタルコート、それらを保護するクリアコートを(株)ユニゾーンが開発。
- ・ガラスブロックを1つ1つ手作業で生産・加工するのは、ガラスのアーティスト集団、富山ガラス工房。



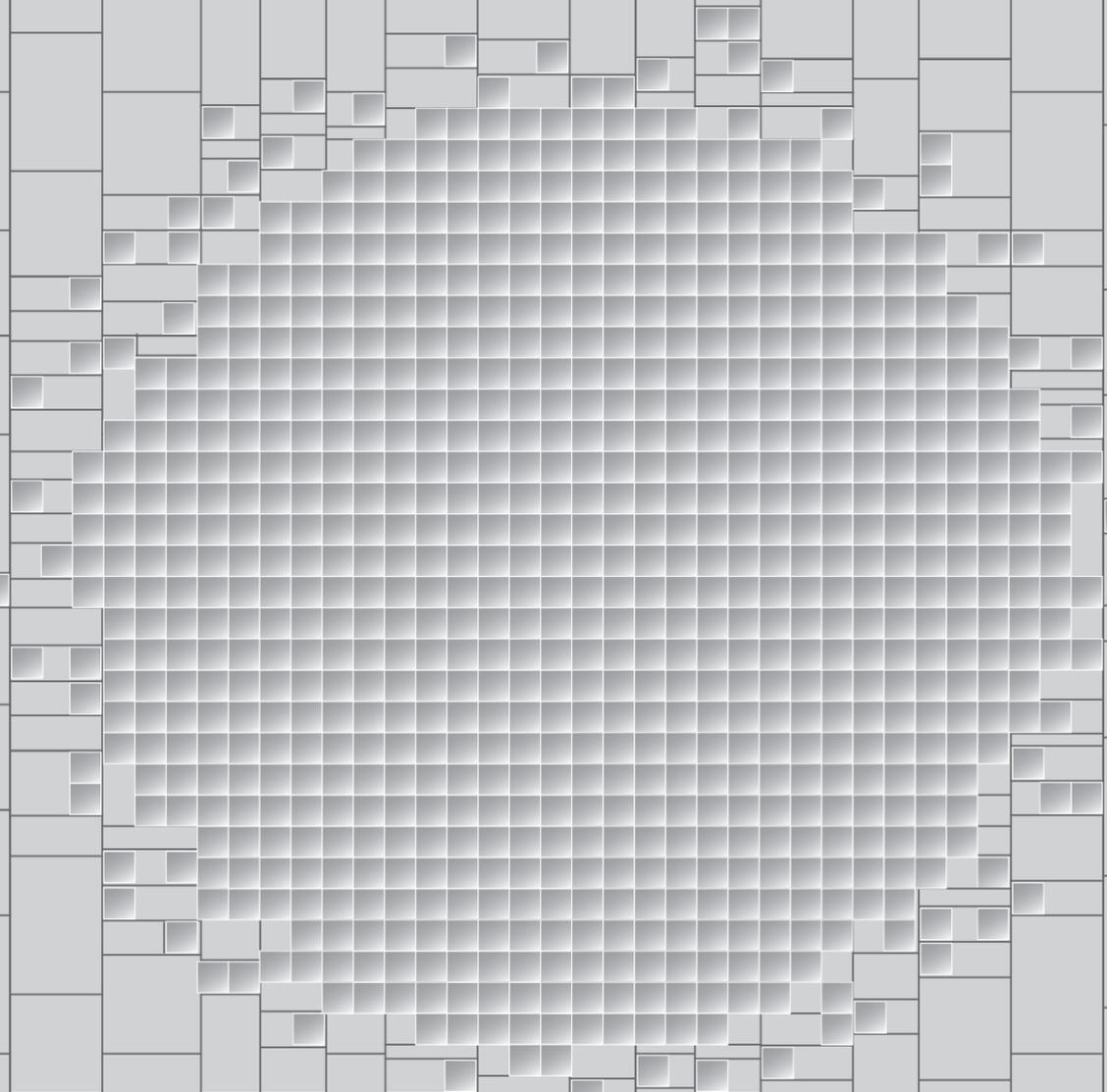
## フロア・シャンデリア

- ・反射質の金属をコートしたガラスブロックを床に設置し、天井からのライティングによって様々な表情を与える。
- ・手加工のガラスブロックとガラス内を反射させる金属を介して、投影された光は滲み、歪み、印象画のような表情をもたらす。
- ・中央部にはガラス面を集中させ、その中で家族や仲間たちが光に包まれる感覚を味わえる広さがあり、次第に周囲の舗装に拡散するような配置。
- ・天井照明は、灰褐色の御影石に散りばめられたガラスがコントラストを持って反射する。
- ・アートガラスの摩耗防止と滑り止めを兼ねて、表面に加工をした高透過強化ガラスを用いる。
- ・屋内ではあるが様々な利用を考え、屋外に対応した滑り止め加工をしたガラスを用いる。

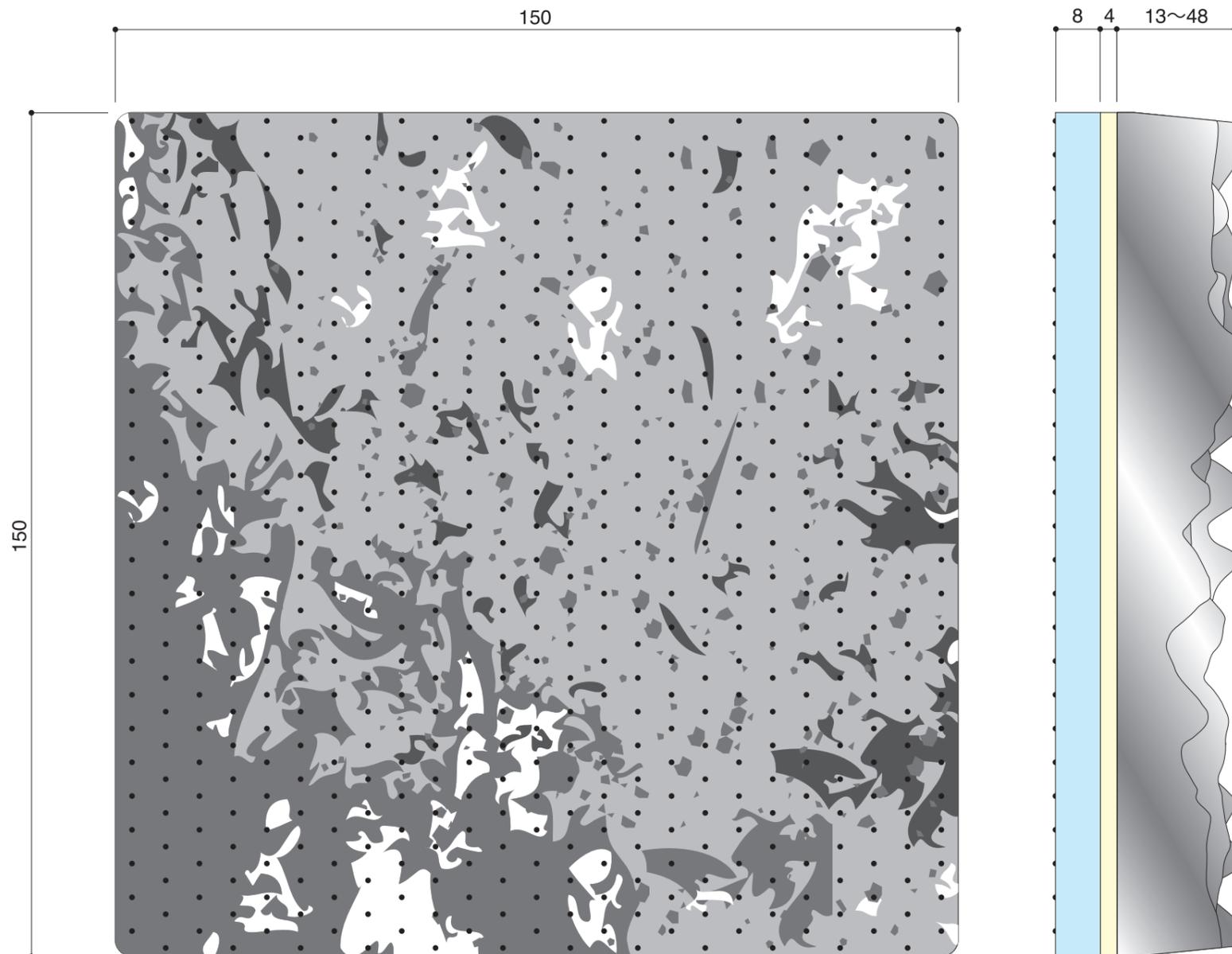
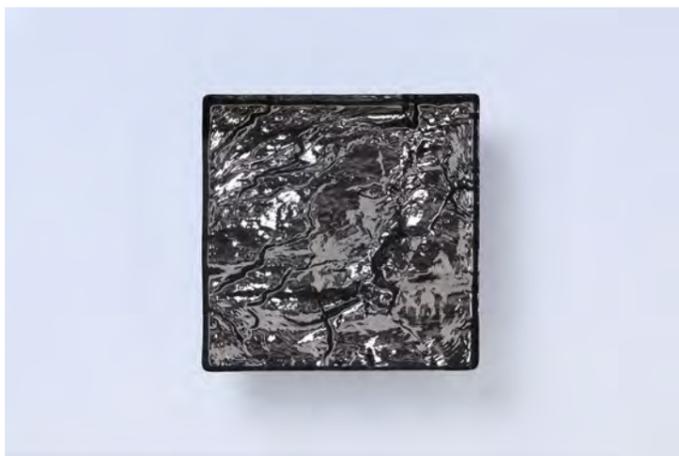
5429

5685

Chandelier Block 817ヶ



シャンデリアブロックキャスト



シャンデリアブロック断面図

